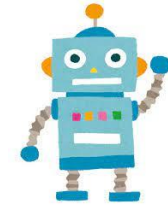


専攻科福祉専攻～介護実習Ⅱを～



気温の高低差が激しい今日この頃、皆様はいかがお過ごしでしょうか。「昼間は暖かかったのに、夜寒すぎる…💧」とならないように、お出かけの際にはさっと羽織れるものを一枚用意するなどして、秋を元気に乗り越えていきたいですね。

今回は10月に行った3週間の介護実習Ⅱについて紹介していきます😊

■介護実習Ⅱとは

特別養護老人ホームで行う今回の実習では、3週間の中で対象者1名を決めます。その方の生活の様子、身体状況、生活上の課題を実習の中でアセスメントしていきます。そして、その情報から介護過程を立案し、対象者の方に対して実際に実践、振り返りを行いました。

実習の中では、カンファレンスや出校日で施設の方と先生との話し合いが合ったり、立案した計画についてアドバイスを頂ける機会がある為、安心して介護過程を実践していくことができました。

■アセスメントとは？

介護サービスを提供するうえで、利用者さんにとって「どのような介護サービスが必要なのか」、「要介護者やご家族は何を希望しているのか」といった利用者さんを取り巻く状況を把握・分析し、何を必要としているかを正しく評価・振り返りをする事。

■介護過程とは？

利用者が望む生活を実現するために取り組む、科学的思考と実践のプロセスのことであり、介護実践の根拠となるもの。介護過程の展開によって、ご利用者が望む生活を実現するうえで生じている生活課題を解決することにより、ご利用者のQOL（生活の質）を向上させることを目的としている。

■介護過程の実践の様子



A・Tさんは、入居者様が肌の乾燥によって自信を喪失しないことを目的に手浴、足浴を実施しました。この実施によって、手浴、足浴を入居者様が楽しめる場を作り出すことができました。また、効果にはリラックス作用があることが分かったため、実施時間を午睡、就寝前に移してみるなど、今後の工夫についても考えることができました。

S・Hさんは、かつて和裁を得意としていた入居者様に対し、ヘアピン作りを実施しました。この実施によって、普段あまり手先を動かさない入居者様が自ら進んで笑顔で活動に参加する姿を引き出すことができました。

本人の気持ちに寄り添い、楽しいと思えることを行うことで意欲の向上につながるのだと思いました。



S・Aさんは、「みんなで楽しく冗談を言いながら過ごしたい」と話している入居者様に対し、コミュニケーションロボット『チャピット』を用いた関わりを行いました。その結果、対象者の方が生活の中で発話をしている場面を増やすことができました。しかし、『チャピット』が方言をうまく聞き取れないことから、介護者が間に入らなければ会話が成立しない為、介護者が忙しくても入居者様がコミュニケーションをとれる関わりを考えていかなければいけないという課題を見つけることができました。